平成２６年度

第３回朝日地域審議会

会議録【概要】

期日：平成２６年１１月２０日（木）

場所：鶴岡市朝日庁舎　大会議室

平成２６年度　第３回　朝日地域審議会　会議録

○　日　時　：平成２６年１１月２０日（木）　９時３０分から１１時２０分まで

○　会　場　：鶴岡市朝日庁舎４階　大会議室

○　出席委員：敬称略・五十音順

安達幸恵　五十嵐大輔　井上時夫　大滝清策　工藤悦夫　今野継子　佐藤泉三、

佐藤正　佐藤照子　佐藤宥男　佐藤芳彌　渡部嚴　渡部力雄

* 欠席委員：敬称略・五十音順

五十嵐英紀　齋藤源之助　清野一女　清野清　難波一之　松本壽太　渡部小枝

* 市側出席職員

【庁舎】支所長　宮崎清男、総務企画課長　佐藤利浩、市民福祉課長　渡邉健、

産業課長　佐藤和雄、産業課主幹　阿部重則、

南部税務事務室長　工藤幸雄、南部建設事務室長　伊藤哲哉

総務企画課職員

【本所】企画部政策企画課長　髙橋健彦、政策企画課長補佐　佐藤豊、

政策企画課主査　上野修、地域振興課地域振興専門員　齋藤芳、

　　　　　　　　　　地域振興課専門員　前田哲佳

１.　開　　会

２.　あいさつ

３.　協　　議

（１）鶴岡市新市建設計画の見直しについて

（２）鶴岡市総合計画実施計画の策定について

（３）その他

４.　その他

５.　閉　　会

1.　開　　会　９時３０分　(進行　総務企画課　佐藤課長)

・出欠席の確認

・配布資料の確認

2.　あいさつ

○　佐藤芳彌会長

○　朝日庁舎宮崎清男支所長

３．協議

○　佐藤芳彌会長

さっそく協議に入ります。何もなければこれが最後の審議会になります。今までを振り返りながらそれぞれの立場で貴重なご意見を頂ければと思います。

（１）の新市建設計画の見直しについて、事務局の説明をお願いします。

（１）鶴岡市新市建設計画変更の説明

説明：企画部政策企画課　上野主査

○　佐藤芳彌会長

　世帯数の見直しということで２つのデータと経過の説明をしていただきました。何か今の件についてご質問ご意見あれば。

なかったらいろいろなデータ、統計とかも含めて試算した見通しですので了解していただきますか。ありがとうございます。（１）はこれで終わります。

○　総務企画課　佐藤課長

皆様からご承認いただきましてありがとうございます。この答申については他の地域審議会も開催の予定があります。場合によっては計画の変更の意見が出されるということがあるかもしれませんが、この件については後日審議会の会長会議等で検討の上最終的な答申を出させていただきたいと思います。その場合については審議会会長と事務局に一任させていただければと思いますのでよろしくお願いします。

○　佐藤芳彌会長

　この件については、今までのいろいろな審議の結果を踏まえて、また会長会議でいろいろ検討を加えて答申をしたいと思います。

○　政策企画課　佐藤課長補佐

　補足いたしますが、本日答申いただきますが、これからまだ開催されていない審議会もありますので、もしほかの地域審議会で異論が出てこの原案と違った形になった場合、会長会議を開かせていただきます。６つの地域審議会が原案通り答申いただけた場合は、会長会議を開かないで６つの答申ということで全体のものとしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○　佐藤芳彌会長

まだ地域審議会を開催していない地域があって、その状況を見ながら対応をするということでご了解を頂ければと思います。

（２）の鶴岡市総合計画実施計画の策定についての説明をお願いします。

（２）鶴岡市総合計画実施計画の策定について

説明：企画部政策企画課　上野主査

○　佐藤芳彌会長

　平成２７年から２９年までの３年間の実施計画ということで、膨大な資料の説明をいただきました。それぞれの目線でのご質問ご意見を頂ければと思います。

○　大滝清策委員

　２つだけお願いをしたいと思います。一つは現在大鳥に地域おこし協力隊２名が来ておりますが、地域のためにいろいろと協力いただきありがとうございます。もう１年半で終わりますが 、そのあとのことについて、大鳥に定住できるように住んでいるところを市で購入できるようご協力をお願いしたいと思います。

もう一つは、朝日大泉小学校が閉校になり体育館とグラウンドは現在使用していますが、校舎の利用について、老人を都会から取り入れる施設とか何も今は考えていないか返答をお願いしたいと思います。

○　佐藤芳彌会長

　実際当面する課題ということで２つ質問をいただきました。協力隊の定住、朝日大泉小学校の活用ということで、今答弁できれば簡単にお願いします。

○　総務企画課　佐藤課長

協力隊、学校跡地の利用についてのご意見がございました。協力隊についてはみなさんご存知の通り最長の期限であと一年半ということで、２人とも大鳥地域で頑張っているところです。今後については定住等も含め協力隊員と地域との相談を踏まえ、対応について検討していきたいと思います。学校跡地については現在体育館とグラウンドは使用していますが、校舎については今のところ具体的な計画は市としては持っておりません。今後はこれから広域コミュニティの組織化ということで大泉地区の自治会連絡協議会等もありますので、そういった団体等と協議を行いながら利用計画については進めていきたいと思っております。

○　佐藤芳彌会長

　いいですか。関連して。そのほか。

○　五十嵐大輔委員

自分も地域おこし協力隊の２人は、まちづくり塾で一緒にやっているので気にしていますが、先ほどあったように家や土地を買ってあげたほうが住みやすいというのは確実だと感じています。もっと感じているのは地域おこし協力隊と名前がある通り、大鳥地区を中心に地域おこしはとても頑張ってもらっていると思いますが、この実施計画の策定などには、過疎対策として配置し定住促進を図ると書いてあります。彼ら自身ががんばっているのは分かるのですが、正直過疎対策にはなっていないと感じます。大鳥地区に関して今後は２人が定住し結婚し、新しい世代が広がって過疎対策にはなるかもしれないですが、大網や東岩本などそちらのほうまで過疎対策になっているとは正直思えなく、この地域おこし協力隊自体はとても素晴らしい活動だと思うのですが、取り組みの中に過疎対策としての項目の中に入っていることにすごく違和感があります。過疎対策としてというのはもっといろいろなことをやれることがあると思うので、地域おこし協力隊も当然含んではいると思いますが、ここに地域おこし協力隊を配置し、というだけでは文言としてはおかしいと感じました。

彼らはいろいろな資格を取って頑張っていますが、農業も今年くらいから徐々に頑張っていますし、自分も就農して５年目くらいですが、新規就農者に対しての取り組みで、35ページに新規就農者数が平成22年の19人から平成30年の30人、現在の31人とかありますが、農業をしていて、新規就農者というものをまわりで感じたことがなく、いるのだろうとは思うのですが、朝日の新規就農者の推移というものを知りたいし、新規就農者がいるのだとすれば、いろいろ連携をしたいので、朝日で実際本当で専業農家で就農している人がいるのかというのを調べてほしいし交流したいというのがあります。この数字というのはあくまで市全体の数字なので、朝日と櫛引地域には新規就農者というか若手が多いですし、お米とかほかの作物に関しても比較的若手の農家は見受けられるのですが、旧市町村ベースだとかなり新規就農者数、就農率には差があると思うので、その辺をもう少し細かく調べたうえでの数値目標を立ててほしいという意見というかお願いがあります。

中山間地域の活性化とか森林関係のこととか書いてありますが、朝日の森林組合もずっと赤字が続いているとか支所の規模がどうこうとかいろいろ話があるようで、自分は直接かかわっていないので何とも言い難いのですが、旧朝日村は鶴岡市で一番森林を保有しているにもかかわらず、ほかの地域だと森の駅だとか薪ステーションだとかいろいろな取り組みがあり、朝日では学校を建てたときに大きい木材の利用はありますが、正直森林文化都市の中心になるべきだというのは朝日とか温海のような森林を多く抱えているところだと思いますが、新たな取り組みというのは見えてこないので、新規で林業家が増えるとか当然森林組合もそうだし、新しい取り組みが醸し出される雰囲気というか対策が練られていないというのを感じていて、自分の家のすぐ裏には林があるが、いざ農業をしながら何か利活用しようと思ってもせいぜい木を切ってキノコを植えるくらいしかできないので、もう少し朝日の農家には森林を使える環境があるので、農家がもっと細かく森林を使える環境整備というのも朝日として取り組んでいただきたいと思います。ここままだと木質バイオマスとかエネルギーとかありますが、外の企業に入られ、新しいエネルギー関係のものを外から奪われて終わりですというのはさみしいと思うので、ここへんは先んじて朝日の人たちが率先して取り組めるような取り組みをしてほしいと思いました。

バイオサイエンスパークを作るときにプリツカー賞を取った有名な建築家の方が関わるということでニュースになっていましたが、一つ疑問なのが、バイオ関係のことに日本で３人しかいない、ノーベル賞に匹敵するといわれるプリツカー賞を取っている人を使わなければいけないのかという、そこは民意が本当で働いてその人を選んでいるのかということで、朝日には直接関わりはないのですが、サイエンスパークで働いている知り合いがいて話を聞いたのですが、文化会館の時のような民意が取り入れられていないとか、またあとで何度か入札の不調が起きたとか、この偉い人を呼んで本当で大丈夫なのかということが心配です。

最後に、最近飲食店の滝太郎の店が売りに出されていましたが、最近県外からの友達が急に来たものだから、郷土料理を食べさせたいけども大網とか大鳥のほうまでは連れて行くことはできないし、どこか朝日で郷土料理を急に食べさせたいと思った時に落合周辺ではどこもないと。道の駅とかドライブインやグーなどよりももっと朝日らしい郷土料理を食べさせられるところが国道沿いとか比較的行きやすいところに全くなく、朝日の人が起業してやってくれるのが一番いいと思いますが、外からプロフェッショナルな料理人を朝日に定住させて朝日の郷土料理をプラスアルファで提供できるようなお店がないと、どこで郷土料理を食べさせるのだろうかと思います。食文化という割には気軽には食べられない雰囲気が出ていて、櫛引の知憩軒であれば比較的近くなるので行くことはできますが、そういったところにプロの料理人を育てると郷土料理も一緒に元気になるとか、いろいろな角度の取り組みがあると思いますが、郷土料理を気軽に食べられる場所がないとさみしく思い、ここの大きな全体的な取り組みの案としては細かすぎる話かもしれませんが、もっとそんなところも気にしてもらえるような細かい実施計画も立ててほしいと思いました。

○　佐藤芳彌会長

　5つの部門からご意見、ご質問、含めて提案もありました。まず意見の部分は意見として捉えて、例えば新規就農者の朝日の実態とか森林文化で地域として新たな取り組みとかそういった質問もありましたので、答えられる範囲でお願いをしたいと思います。

○　総務企画課　佐藤課長

　最初に地域おこし協力隊と過疎対策ということでご質問、意見、考え方等いろいろ貴重な意見ありがとうございます。現在大鳥地域に地域おこし協力隊が来て1年半で、最長で3年という条件付きではありますが、その協力隊の3年を超えた後の対応というのは先ほど申し上げましたように、協力隊とこれから協議をしながら私共としてもできるだけ地元に定着していただければと考えております。そのためには現在いろいろ起業に向けて彼ら自体が準備を進めるなり考えを持っているかと思いますので、そういった点についてはこれから支援できる部分について、どのような支援ができるかということを今後検討してまいりたいと思います。さらに過疎対策ということですので、必ず大鳥地域のみに限った現象ではないと捉えております。今後こういった地域おこし協力隊を配置できる地域があるのかどうか、その辺も含めまして朝日地域全体として考えて過疎対策事業として事業を推進していきたいということもありますので、ご理解を願いたいと思います。

○　政策企画課　佐藤課長補佐

　過疎対策の件で補足をさせていただきますが、過疎対策ということで集落支援等のみ記載されておりますが、最終的に出されたご意見を踏まえて最終的な実施計画を取りまとめる際に、例えば豪雪対策ですとか交通の確保、地域医療の確保等様々な課題もありますので、そういったところの表現も盛り込んだ形で整理してまいりたいと思っております。

○　産業課　佐藤課長

　先ほどの新規就農や農林業振興の施策のご質問がありましたが、新規就農に関してはここ数年ゼロという数字で上がっています。なお、農林業振興の施策ということですが、49ページにもありますように朝日地域は農地・米・ワインそれから山菜・キノコ等の収益的なものになっています。米は国の施策に伴い農地中間管理事業等の集約化並びに法人化などの効率化を目指したところで動いていますし、ワインについても一部報道等もありましたが、これから庄内地域の特産という形でテコ入れをしていきたいということで、予算的なこともこれから考えている状況です。また特用林産物に関しても、先ほど五十嵐委員からありましたように、朝日地域ならではのものですので、行政的に今年度また来年度以降も支援策を講じていきたいということで予算化に向けて取り組んでいる状況です。

○　政策企画課　髙橋課長

　バイオサイエンスパークに関することと郷土料理に関することをお答えします。バイオサイエンスパークについては21.5ヘクタールのエリア計画で現在7.5ヘクタールまで進み、まず行政で取り組んでいくのはここまでかと思っています。残り14ヘクタールについては民間資金を投入し、民間事業として開発するということで進んでいます。先ほどお話しありましたプリツカー賞の坂茂さんのプランについても、これは民間プランとして現在進んでいるものです。可能な限り世界に誇るサイエンスパークエリアというコンセプトで世界から人材企業を集めるというコンセプトの計画とうかがっています。ちなみにこの坂茂さん、木造建築を一つ手法にしている建築家で、おそらく現段階のプランではパーク内14ヘクタールについては多分に木造建築、コンクリートのビル群ではなく、木造建築による非常に特色ある建物が並んでいく計画ということで、現在坂さんのほうで設計を鋭意進めておられるとうかがっています。

それから郷土料理の関係ですが、お話のとおり食文化創造都市ということで、今後鶴岡市は積極的にこの方向性での展開を目指してまいります。そのようなことでこの食の基盤となる民間における食のビジネス、これを高度化していく必要があろうと思っています。厚生労働省の事業を活用した様々な人材育成・起業家育成ということに現在取り組んでおり、例えば食のビジネス講座ということで、料理人の方や食ビジネスを展開されようとする方々のビジネススキルを上げていくような形として進んでおり、まずは意欲ある方々に力をつけてもらうことが先決である、ということで取り組んでいますのでよろしくお願いします。

○　佐藤芳彌会長

はい、いいですか。

○　五十嵐大輔委員

　2つ、坂茂さんが残りの14ヘクタールを民間で、のところですが、坂茂さんでなければだめなのか、というのがすごく気になって、民間に本当で取り組んでほしいのであれば坂さんは世界的な賞をもらっている人なので民間でも依頼するとすごいお金がかかるんじゃないかと。だったら県内でも木造に特化している建築家もいると思うし、なんでわざわざ世界で1，2を争うような人を選んだのか。もしこの人を選んだことによってハードルが高くなりすぎて絵に描いた餅になってしまわないのかというのがすごく気になって、偶然友達にも若手の建築家で企業したばかりの人がいますが、その人も木造建築とか地域デザインに関わっている人なので、そういう人なんかでもいいと思うし、そういう人たちに声が実際かかったのかとか、市で単独でこの賞を取った人を選んだのかというのが気になって、このままでは本当で絵に描いた餅になるのだろうと思うので気を付けたほうがいいと思うし、もっと市民にデザイナーを選ぶ権利を与えたほうがいいと思います。

もう一つ滝太郎とか郷土料理とかの件に関して、そういう人を育てる段階から始めるということでしたが、今朝日出身の人で県外で料理人をしている人がいます。そういう人をUターンさせれば育てるまでもなく一気に起業できるので、育てるのも当然大事ですが、県外にいて戻る機会がない料理人がいるので、そういうところまで調査して、戻れる人がいるのだったら戻ってもらい、すぐにでもなくてもお店を始められるような支援をすれば育てる手間も省けるし地元にUターンもできる、そういうメリットもあるやり方もあると思うので、育てるとプラスUターンしてすぐ起業できる人がいる、というのを調査発掘して起業してもらうというのもいいと思うので、ただ育てるといってもどこに育てる人がいるのかわからない人よりだったら確実に料理をしている人が朝日出身の人にもいるのでそういうことをきっちり調べてそういう人に声をかけて、戻って朝日で料理をやってみないかと声をかけたほうが朝日らしくていいと思うので、育てる以外の政策も取り組んでほしいと思いました。

○　政策企画課　髙橋課長

　坂茂さんのことでありますが、これはぜひお間違えならないようにお願いしたいのですが、先ほど申し上げました通り今後民間事業としてやっていくということです。民間のエリア開発会社がこの坂茂さんを採用して、非常に付加価値の高いエリアにしていくという民間事業であり、市が選んだものではありません。そこはしっかりご確認の上ご発言いただきたいと存じます。

郷土料理の関係、おっしゃる点についても先ほどご説明いたしました通り、UIターンに関する移住定住促進というカテゴリーの中でイメージの実現を図ろうとしているわけでありますので、よろしくお願いいたします。

○　佐藤芳彌会長

　はい、ありがとうございます。

　これが最後になるという話もありましたし、それぞれの思いもありいろんな意見があるとは思いますが、要点を２つくらいにまとめてご質問ご意見を頂ければと思います。

○　渡部嚴委員

　この間鶴岡で２０４０年の鶴岡まちづくりを考える市民シンポジウムがあり、それに行ってきたのですが、平成３２年では人口が１１万４千になり、２０４０年には今から約３万減って９万４千になるということでした。人口が年々減っていく実態は読めるわけですから、それにどう対応をしていくかが非常に大事である。人口が減るとどうなるか、先ほど来話になっていますが、地域の若者がいなくなる、地域の活性化が失われるということが出てくるわけで、若者が大学を出て地域に帰っても仕事がないということで、働き場があれば子供を呼び戻せるという意見がたくさんあり、今地方創生担当大臣も新たにでき、仕事が人を呼び、人が仕事を呼ぶ、というサイクルは大事なことで、なるほどと聞いていましたが、産業の振興が人口減少にとって大きな視点になるということが感じられます。そのほかいろいろ総合行政の中で出てきますが、産業の振興、何と言っても働き場が必要だと思われます。そういったところを考えると個々の中でも取り組んでいますが、今の鶴岡のベンチャー企業とか世界に誇れる企業が進出し育てられていますが、そういう企業が現在の地域にある企業とどう連携して地域の企業・経済の活性化を図るか、人口の交流を図るかということが大事だと思うので、なかなか世界に誇れる企業というのは地元で対応できない部分もあるかもしれませんが、反面対応できることもあるだろうということを思う時に、地域と連携して地域でお手伝いできることは地域でできるような形の仕組みづくりをこれからもお願いしたいと思います。

現在朝日は特に人口減少が激しいわけですが、そういう時に私たちが自分たちでできる自立の精神とどうしてもできない公助の部分と、お互いに協力していく互助の精神をどう育てて地域の中で根ざしていくかということが大事だと思うので、将来を見据えた、将来のために何をやっておくべきかということを今考えるべき時なのではないかと思います。そのようなことをお願いしたいということが一つと、個別の施策として朝日の場合山ぶどうの振興ということでありますが、合併前の時代からも朝日の特徴的な産業の一つとして育てられてきて現在に至っているわけですが、最近どうも影が薄くなってきていると同時に、農協で主体的に取り組んでいますが、高齢化の問題、去年までは山ぶどうの生産調整があり買い入れ制限がありました。そんなことで圃場が荒れたところや山ぶどうをやめた人を含めると、元に戻るのかということ、出荷調整などいろんな要因が大きかったと思うのですが、２つめは品種が合わないということで改植を推進しているということです。山ぶどうでも成木になるまで時間がかかるわけですから、品種の選定や販路の拡大等も含めて考えてはいるのだろうが、なんとなくその場当たり的なことが多く、生産者が非常に困惑しています。今年あたりは生産量が足りず山ぶどうジュースも作れないということにもなっています。その時一気に生産するわけですが、生産できないわけです。長期的なビジョンの中で生産者がやっているわけで、また成木になるまで生産者も相当な投資をするわけで、計画的に農協に任せるだけではなく、朝日地域、それを振興していく山ぶどうを含めワインも振興していくということであればもう少し行政も関わった中で計画の段階からかかわっていただいて、朝日地域のものを経済団体と一緒になってどう展開していくかということを、もう少し緻密に農家に下ろしてほしいと最近特に感じております。今は足りないから作ってくれというようなことですが、あるいは品種が合わないということで、農家は困惑をしております。それが減産につながる要因だろうと思われます。そのことも地域特性としてこれから振興していくひとつの大きなものだと思いますのでよろしくお願いしたい。

○　佐藤芳彌会長

　ありがとうございます。前半の部分はご意見として受け止めて、後半の山ぶどうの件について。

○　産業課　佐藤課長

　渡部委員のワインに関する様々なご提言ご質問ありましたので、現状を踏まえてお話をさせていただきます。一部の報道にもありましたが、ワインについては、来年度から充填ラインとかタンク等の整備、数億の事業という形での支援が計画されています。その中には渡部委員が申されました消費の拡大や販路を海外にも求めるという、シェアの拡大・販売ということも当然あります。それからなんといっても生産・消費の拡大ということが前提になりますので、圃場的なものの比率を増加させていく取り組みも検討しています。具体的にはブドウ品種を目指した改植の必要性ということで先ほどお話ありましたが、改植についても単に個人だけの支援だけではなく、鶴岡市全体の農家の中で何とかやれる方策がないかということで議論している状況ですし、現状あるブドウ園の維持についても個人の営農の方に負うところが多々ありますが、今後は組織化の中で維持しながら拡大をする余地がないか、それがこれからの消費拡大や、海外にシェアを向けたところでの販売戦略にも結び付いていくのでないかということで、ＪＡさんと行政とさまざま議論させていただいている状況です。

○　渡部力雄委員

　６ページと３８ページに６次産業について触れていて、具現化支援などとありますが、この具現化支援とはどういうものか詳しく教えてほしいのと、補助金の支援はあるのかないのか、あるとすればどういった備品に何割ぐらい出せるか等、分かればお聞かせ願いたい。

○　佐藤芳彌会長

　はい、６次産業の件に関して。

○　政策企画課　佐藤課長補佐

ただいま６次産業化の事業の具現化支援ということでご質問いただきました。６次産業化ということで直接農産物を売るだけではなく、加工流通といったところの広がりを持たせていく取り組みになるわけですが、詳しいところは産業関係のところではないので分からないところもありますが、例えば缶詰を作ったり農産物の加工販売などや、流通の部分についても単に農協さんに出すだけではなく、より広がりを持たせていこうという取り組みになると思います。創意工夫にあふれる事業ということで、県のほうで支援措置を設けていたかと思うのですが、併せて市としても独自支援について庁舎でも来年度要求に向けて向かっていきたいところもありますので、引き続き市としても６次産業化を推進していく予定になっています。お金の支援については先ほど申し上げました通り県の支援それから市の支援としても来年度予算要求に向けて検討していくということです。

○　渡部力雄委員

　補助金を出すか出さないかはわからないということですか。

○　政策企画課　佐藤課長補佐

　まだはっきりしてはいません。

○　渡部力雄委員

　はい、わかりました。

○　佐藤芳彌会長

　はい。

○　佐藤宥男委員

　総合実施計画の目次をご覧いただきたいのですが、マスコミも含めてすべてですが、中ほどより下の（２）人口減少対策の推進という項目がありますが、これをそのまま字のとおりに見ますと、開発途上国とか中国とか人口が多くて困っているところの施策ではないのかと思われるのです。私の日本語の使い方が間違っていればですが、人口増加対策の推進あるいはどうしても減少というマイナスイメージの言葉を使いたいとすれば減少防止対策の推進というようになるのではないのかと、ずっとマスコミ含めてすべてこのタイトルできているので、これでは人口が増えるわけはないと思っていましたがどうでしょうか。

○　佐藤芳彌会長

　人口減少対策の言葉の解釈の考え方ですが。

○　政策企画課　佐藤課長補佐

　ただいま人口減少対策という言葉の使い方についてご意見いただきましたが、こちらのほうは割とマスコミですとか国・県のほうでもこういった表現をしており、噛み砕いて言うと人口が減少することをどう食い止めるのかという対策を打っていくというような内容かと思いますので、市としてはこういった表現を使わせていただいたということでございます。

○　佐藤芳彌会長

いいですか。

○　佐藤宥男委員

　せめて減少の次に・（中黒）があればまだ分かるのですが。

○　佐藤芳彌会長

　はい、悦夫さん

○　工藤悦夫委員

　大鳥はみなさん分かる通り限界集落で、その中に住んでいる一人です。この中にこの限界集落の言葉にはでていませんが、どこかに謳っているのかと思いながら調べてきましたが、ここでは謳っていませんので要望したいと思います。限界集落の維持、それから存続の方向付けとして私の考えは協力隊ではないかなどと思いながら考えておりました。地域の格差の優遇というものを少し考えてもらえればありがたいし、いつかこの話をしたような記憶もありますがまたここでお願いをしたいと思います。

今日来るときにサルをもう少しで轢くところに遭遇して、誉谷トンネル付近で１００匹以上の集団がいて、日増しにサルの数が増えている状況です。大根・蕪・葱、根こそぎ皆食べに来て運んでいます。蕪も今日の朝でほとんど全滅という感じの状況です。この対策として夏は猟友会の皆さんに巡回してもらっていますが、今出てくるのを見ていると、あの巡回見回りはなんだったのかという気もしなくもないわけで、その効果、ここ巡回して何年かにはなりますが、効果が上がっているのかいないのか、それとも別の方向で対策を考えればもっと効果が出るのか、その辺を少しこれから検討してもらって来年に向けてお願いしたいと思います。

○　佐藤芳彌会長

　はい、今限界集落の捉え方も含めての対応と、鳥獣被害、サルの質問もありましたので、答弁を頂ければ。

○　政策企画課　佐藤課長補佐

　限界集落の部分については大変深刻な課題として受け止めております。どういった表現になるかはわかりませんが、実施計画策定のほうで盛り込んでいけるかどうか検討させていただければと思います。また、鳥獣被害対策の関係ですが、36ページの数値目標が書いてありますが、ニホンザルの被害面積を確認しますと、25年3月で7.3ヘクタール、その前24年時点で14.1ヘクタールということで、数字的には少し良くなっているように見えますが、ただ、実感としてサル被害が増えているのではないかと感じております。また今年度朝日地域と温海地域で小水力発電を活用した電気柵を設置し、そういった対策も取り組んできているところです。今日おいでの渡部委員さんから大変ご協力いただいて、実証実験的に取り組んでいるものですが、そういった対策等を進めながらなんとか被害を食い止めていければと思います。

○　佐藤芳彌会長

　はい、今限界集落という言葉が出ましたが、基準というか、どこを基準に限界集落を位置付けているのか。

○　政策企画課　髙橋課長

　学術的な用語でもあり、今記憶が確かではありませんが、集落内何世帯が老齢世帯のみになってしまうと限界集落というような、学術上の定義もあるようでした。ちょっと今正確に申し上げられず申し訳ございません。

○　地域振興課　前田専門員

　限界集落の補足ですが、限界集落という言葉自体の定義は、高齢化率が50％を超える集落を限界集落という表現された先生がいらっしゃるということで、その先生が表現を使われてから限界集落という言葉が世に出始めたということでして、ただ過疎対策、大きく集落対策を進めていくうえでやる気のある集落、いくら高齢化率が50％を超えても地元の方ががんばっている意欲がある以上、限界集落という括りにするのはどうかという部分もありますので、過疎対策としては限界集落という用語は使わないようにしているのが現状です。大鳥集落についても高齢化率だけで見ればかなり高い集落ではありますが、地元の方が一生懸命頑張っているという状況もありますので、担当としては限界集落だとは思ってはいないというイメージです。

○　佐藤芳彌会長

　では、限界集落と思わないで頑張っていただきたい。

○　渡部力雄委員

　補足ですが、先ほどサルの件で悦夫委員が質問しましたが、10月1日から猟銃を持っている人は全員が駆除隊、鶴岡市の非常勤特別職になっています。ですから、夏は巡回し駆除したり追い払いをやっていましたが、10月1日からは全員が駆除隊として、もし電話受けたら猟友会員はすぐ出ることになっていますので、ちなみに賃金もまだ決まってはいないかと思いますが、鶴岡市から個々に入ることになっていますので、悦夫さんも隊員で、鶴岡市の非常勤特別職ですので、その辺ご理解のほどをよろしくお願いします。もしサルがいたら駆除してください。よろしくお願いします。

○　佐藤芳彌会長

　特に所持している方々、よろしくお願いします。サルも今悦夫さんからありましたように前食べなかった大根を食べたり、庄内柿の渋いのをかじったりいろいろ進化をしていますので、田麦俣のサルは大根を田んぼで洗って食べているそうですので、猟友会もサルの知恵から負けないようにぜひ頑張ってほしいと思います。そのほか、女性の立場から今野さん、安達さんなにか。

○　安達幸恵委員

　食に関してぜひこれは通ってほしいと切に思っています。何年か前に朝日保育園で給食係として勤めていた時に、ちょっと矛盾を感じていて、本当はこうじゃないほうがいいなとずっと思っていました。最近テレビでも給食の問題でいろいろ出ているようです。私が今言っているのは、6ページの食育及び云々のことです。オール鶴岡産給食、これをぜひ実現させていただきたいと切に思います。以上です。照子さんお願いします。

○　佐藤照子委員

　先ほど五十嵐大輔さんのほうから、地元の料理を食べられる店が少なくなったということで、私も滝太郎さんが無くなったことでいろんなお客さんがその地元で集う場所が無くなったいという声をよく聞きます。産直あさひグーに関してですが、年に４回なのですが、山のごっつぉまつりというものを開催してだいぶなりますが、大変好評を得ています。１か月に１回ずつしてもらえないかというようなお客さんからお話があるのですが、それは営業にも関係あるものですから、今のところは春夏秋冬１回ずつやっています。なるべく朝日で朝日の郷土料理を食べていただきたいと思って頑張っていますし、食改の方々も力を入れていろんなことをやってくれているようなので、私からはただがんばっていきたいなという意見です。

○　佐藤芳彌会長

　はい、今女性委員２名の方から地産地消食育の質問ありましたが、何か答弁。

○　政策企画課　髙橋課長

　ご意見ありがとうございます。いつも食文化創造都市の活動でもご支援いただきありがとうございます。先ほどご説明させていただいたとおり、ユネスコの創造都市ネットワークの加盟が近々発表になる予定でして、そうした意味では獲らぬ狸の皮算用で恐縮ですが、うまくいくのではないかなという期待を大きく持っており、そういった機会を生かし、改めてこの食を地域の宝にさらに磨いていくということで、市としてもさらに食育食改も分野も含めてこの機会をぜひ利用したいと頑張っていきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。

○　佐藤芳彌会長

　はい、ありがとうございます。そのほか。発言できなかった方から。はい、泉三さん。

○　佐藤泉三委員

　この総合計画実施計画の中で、人口減少、これが私は一番の大きな問題だと思います。それでこのさまざまな結婚支援云々、様々の対策が載っていますが、一番の根本は若い女性がいなくなると、どこかの新聞では鶴岡市は将来若い女性がゼロになって市が消滅するのではないかという記事まで載っていました。それに対してどうしたらいいかといえば、地元に若い女性がいなのならば外から呼び込んできたらいいのではないかと思います。そのためにはどうした方法がいいか。鶴岡市をずっと見ていると空き地がだいぶ見られます。そういった土地に遊興施設を誘致したらどうかと。そうして人・モノ・金が動けば経済が動きます。またそういうことでぜひ市議会議員または市の幹部の皆様方には公費を使ってでもいいからほかの施設等を研修されてはいかがかと思います。

そのほかさまざまの計画に対して私３年間ここにいて構想がありますが、そのほかのことはご意見記入用紙にずらっと書いてみたいと思います。

○　佐藤芳彌会長

　はい、非常に奇抜な人口減少対策ということでご意見をいただきました。いろいろ広く決まった路線ではなくアイデアをフルに活用して人口減少対策に取り組んでほしいという、その願いだと思いますのでよろしくお願いします。そのほか何か。

○　渡部嚴委員

　一つはこの膨大なこれからの未来を１時間半で議論しろというのはそもそも無茶な話であって、どういういきさつか分かりませんが、最初に開会されたときも、時間は十分とるようにということで申し入れしたのですが、大体が無茶な時間割だということを感じました。

二つ目ですが、先ほど申し上げました鶴岡の市民シンポジウムがありましたが、中身を見ますと鶴岡市内の市街地をどうするかという、それが主だった課題でした。この審議会が今年度で終わりということもありますし、今後の政策の中にもありますが、各地域旧町村単位でシンポジウムを開いて住民の声を聞く、あるいは意識を高めていくという場の設定は必要ではないかと思い、ぜひ地域での開催もしてほしいということです。

先ほど申し上げましたように、地域の人口が減少していくと自分たちの身は守らなければならないわけですが、地域がよくならなければ自分もよくならないというのが基本だと思います。そのために自分も地域の中でどんな活動がみんなと一緒にできるかということだと思います。そこの中で公助と扶助と自助が出てくるのではないかと思いますので、特に若者で働いている人たちは複雑な勤務になっていて大変なのですが、自分と地域との関わりという部分でのその教育というか、地域風土をどう作っていくかということの行政のテコ入れが必要な気がします。その中で若者からも自分の地域をどうしていきたいのか、未来のために何をしなければならないのかという気持ちを持ってもらうことが必要ではないかと。消防団一つをとっても非常に厳しい状況にあるわけで、総合的な中で未来を背負う人たちと地域とのかかわりの役割をなにかの形で協議するような、あるいは意識を芽生えさせるような教育活動、生涯学習活動もぜひ取り組んでほしいと思います。

○　佐藤芳彌会長

　はい、ありがとうございます。審議会の時間ですが、こちらにも責任がありまして、果たして十分な時間がどういうものかという捉え方もありますが、貴重なご意見をありがとうございました。いろいろ市民の声を聴く場を多くとってほしい、これからの中で自助と公助と互助と、その分野の中で地域コミュニティをどう作っていくかという質問ではなかったかと思いますが答弁をお願いします。

○　政策企画課　髙橋課長

　ご所見、一つ一つ大変ごもっともな話ばかりでございました。ぜひ、今後の各委員会でありますとか本審議会のほうにという段階を踏んでまいりますので、ただいまのご意見ぜひお伝えしながら反映できるように努めてまいりたいと存じます。

○　政策企画課　佐藤課長補佐

　補足いたしますが、本日限られた時間でありますので、お手元のほうに先ほどご紹介いただきましたが、ご意見等記入用紙ありますので、お気づきの点等ございましたら記入して提出いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○　佐藤芳彌会長

　はい、そのほか。なかったら（３）のその他ということで移らせていただきます。

○　五十嵐大輔

　最近ここ何回かのうち1，2回を見て思うのですが、委員の参加率がみんな忙しく、自分も忙しい中参加していますが、参加率が低いということと参加して前回の会議録が17ページあったわけですが、第2回審議会からの変更点というのが、会議録に載っているような文言からの変更というのが見受けられないというので、この委員会での発言がどれだけ反映されているのかをもう少し委員会の方々にわかりやすく、前回から今回に対しての変更とか参考とかいろいろな表現があると思いますが、もう少し明確にしてもらったほうが参加率が増える可能性がないかと気になっていました。委員の中で谷口が偶然4人いるわけですけれど、この間清野清委員から聞いたら老人クラブの委員会と重なることが何度かあったりしたということなので、みんな所属団体の役職のついている人たちが影響しているかは分かりませんが、参加率が２０人のうち7～8割常に参加できる委員会構成とかというのも考えていかないと、せっかくみなさん立派な方々なのに参加していなければ意味がないので、参加率と会議結果を受けての変更点がこういう感じだというところも意識してもらえるといいなとずっと気にしています。よろしくお願いします。

○　佐藤芳彌会長

はい、委員の参加、非常に忙しい方々にお願いをしている部分があると思いますが、参加の実態と会議のあとの対応について、事務局からお願いします。

○　政策企画課　佐藤課長補佐

　ご意見等への対応についての部分でお答えしたいと思いますが、その辺についてはこちらでもどういった形でフィードバックしていくかということは課題認識として持っています。ただ一方会議資料を作って整理して対応等について検討するということでかなり時間を要することもございまして、その辺どういった形で対応できるかということについては内部で検討させていただきたいと思います。

○　朝日庁舎　宮崎支所長

　それでは地域審議会の委員の構成ですが、そもそも地域審議会の考え方、原点になると思いますが、地域審議会については広く市民の声を吸い上げるという趣旨で設置された審議会ということです。今現在は公募委員ということで何名か委員としておりますが、設置の最初の部分では公募委員というのはそもそもありませんでした。それぞれ団体が市民を代表するという観点から団体の代表となられた方々を主に委員としてご依頼をさせていただいたということでした。委員としてなられた方に審議会の協議書の中の枠組みの中には役割としては具体的に書いてはいませんが、委員をお願いする経過の中ではそれぞれの団体の代表ということですので、その方を通じて各地域審議会の状況なりその中で話し合われて協議された内容等を自分の所属する団体にお伝えをいただきたいと、そういうことから地域審議会の委員については、各地域内のそれぞれ構成する団体の代表の方から委員をお願いしてご就任いただいたという経過の中で、今日に至っているという流れでお選びさせていただき、現在は公募委員ということで個人の立場で参加されている方もいますが、委員の役割の中にはそういったことを含めての委員としてお願いをしてきたという経過をたどっていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○　佐藤芳彌会長

　はい、あとその他、何か。

　では、大変ご苦労さまでした。これが最後になる地域審議会だという思いもあったと思いましたが、それぞれに年数は違うわけですが、この地域づくり鶴岡市の発展のために貴重なご意見をいただいてきました。ただ時間がどれだけ確保できたかというのは疑問が残りますが、十年間の中でこの回だけではなくいろいろな研修会も行うということで、市長も含めて講師を呼んで研修会またいろいろな課題については夜何回か集まって検討してきたこともありますし、そういう意味でその思いが少しは地域づくりにつながってきたのではないかと思っているところでございます。前回は初めに担当者と委員と話し合いだけではなく一体感ということで懇親会も含めて研修会をやりましたが、今回は今までやらないできましたが、ぜひ終わりに地産地消、山ぶどう振興も含めて総合的な反省も含めた形でやりたいと考えています。その際はぜひ本所へも案内をいたしますので交流を深めればと思っています。そういうことも計画したいと思いますのでよろしくお願いします。その他事務局のほうから何か。なければこれで協議を終わります。

* 総務企画課　佐藤課長

それではいろいろなご意見、貴重なご意見をありがとうございました。次第にはありませんが、そのほか、皆さんからご意見とかご要望とかありましたらお願いします。

○　佐藤泉三委員

　このアンケート用紙の所属は何と記入すればよいか。

* 総務企画課　佐藤課長

朝日地域審議会委員または所属団体森林組合理事でも結構です。それで出していただければと思います。

そのほかどうでしょうか。なければ振興計画の実施計画の４６ページにもありますが、地域ビジョンに基づく施策の推進のなかで、地域においては協議会等を開催するということで地域ビジョンの提言意見等を持つ機会も今後予定されているようですので、審議会は今年度で終わりですが、来年度以降そういった立場で皆さんからご協力を願うことがあるかもしれませんのでよろしくお願いをします。それではほかになければ閉会を佐藤照子副会長からお願いをしたいと思います。

○　佐藤照子副会長

　皆様お忙しい中ありがとうございました。これをもちまして本日の地域審議会を終了とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。